



八村塁さん

(バスケットボール)

NCAA レポート



アメリカ・ゴンザガ大2年

2017年11月10日 NCAA 開幕

2017年11月26日 PK80 ゴンザガ対テキサス

■基本情報

NCAA ディビジョン I

NCAA（全米大学体育協会）のディビジョン I は、アメリカのトップレベルの大学 351 校によって形成されている。

※ディビジョン分けは大学がスポーツにかかる予算や、スポーツ・チームの数などによって決められている。

NCAA ディビジョン I の大学でバスケットボール選手としてプレーした日本人男子選手は、わかっている範囲では八村さんで 5 人目。日本の大学部活とは違い、登録選手に上限

があるため、ディビジョン I のチームに入るだけでも難関。

ゴンザガ大



ワシントン州スポケーンにある私立大学。NCAA ディビジョン I のウェスト・コースト・カンファレンスに所属。男子バスケットボールでは 1999 年から 19 シーズン連続で NCAA トーナメント（現在は出場枠 68 チーム）に出場している伝統的な強豪。殿堂入りの名選手ジョン・

ストックトンをはじめ、多くの NBA 選手を輩出している。

最新の 12 月 4 日発表の週間全米ランキングでは、AP（メディア投票）で全米 12 位、USA トゥデイ（コーチ投票）で全米 13 位にランクインしている。

■2年目のシーズン開幕。今年はローテーションプレイヤーとして毎試合出場

11 月 10 日に NCAA が開幕。ゴンザガ大はホームでテキサスサザン大を迎えて開幕戦を戦った。八村さんは控えから 18 分間出場し、11 得点をあげて勝利に貢献した。大学 1 年目の昨シーズンは、勝負がついた後に数分出場するだけで、見て学ぶ年だったが、今シーズンは戦力として期待される立場。実際に、開幕戦から出場時間、得点ともに昨シーズンの自己最多記録を更新した。



八村さん

「ちょっとずつ、ちょっとずつ、そういう風に成長できている…スタッツの部分で見て成長できているということは嬉しいなと思います」

「（1年間、ベンチ入りした経験があることは）やっぱり違うと思います。試合の雰囲気とかもわかっているので。ちょっとでもプレーできた部分がよかったなというのはつくづく思いますね」

「(スターターか控えかは) 僕はどっちでもいい。コーチともその話をして、気にするか気にしないかと聞かれました。僕はどちらでも気にしないので、それよりもプレーイングタイム(出場時間)などで、どれだけチームに(貢献)できるかっていうところを意識しています。コーチにスタートで出ろって言われたら出れますし、そうでなくても、それはそれで、あまり(自分の意識として)変わらないと思います」

■シーズン6 試合目、強豪テキサスとの試合で活躍



11月26日、開幕から6試合目、ポートランドで開催されていたナイキ主催のトーナメント、PK80(ナイキ創設者のフィル・ナイト氏80歳の誕生日を祝うために企画されたミニトーナメント。16チームが参加して、2つのブラケットに分かれて戦った)の最終日、対テキサス大戦で、八村さんは20点、9リバウンドの大活躍を見せた。チームも76-71で勝利。

活躍した理由のひとつとしてチームメイトのファウルトラブルで出場時間が伸びたこともあるが、それだけでなく、攻守にアグレッシブに向かう姿勢が光った。八村さんいわく、その前の試合で失敗をしないようにと考えすぎて、チームに貢献できなかったことを反省し、試合前から、この試合ではもっと積極的に攻めると決めていたのだという。相手のテキサス大には、来年のNBAドラフトの上位指名候補にもあげられる7フッター(213cm)のモハメッド・バンバもいたが、身長約206cmの八村さんは「そんなにでかいとは感じなかった。僕も手の長さがあるし、運動神経的には僕のほうがあると思う。ジャンプ力を足すと僕も負けていない」と、互角に戦えたことに自信をつけたようだった。



ゴンザガ大の地元紙、スポークスマン紙には、「テキサス大はレイ・ハチムラのお披露目パーティーを最前列で見るようになった」との見出しで、八村さんの活躍を取り上げていた。

<http://www.spokesman.com/stories/2017/nov/26/john-blanchette-texas-had-a-front-row-s>

[eat-to-ru-i-#/0](#)

八村さん



「今までの試合ではアタックする気持ちがなかった。前のゲームは失敗しないように、失敗しないようにという感じでやっていた。でも、きょうは僕、自分で決めて、何がなんでも、ミスしても何だろうが行こうという気持ちでやっていたのがよかったんじゃないかなと思うんです」

「今まではずっとディフェンスやるので精一杯で。オフェンスになかなか絡めなかつ

たんですけれど、きょうは両方できたんじゃないかと思いました。ディフェンスでまだまだ修正する場所があったと思うんですけれど」

この試合で活躍したことで、八村さんはアメリカのメディアから英語で囲み取材を受けた。その様子を、スポケーンのテレビ局のディレクターがツイッターにあげている。英語力の上達がわかる映像。

<https://twitter.com/DarnayTripp/status/934895634565406720>

■課題：ディフェンスができないと試合に出られない！

強豪チームで毎試合出られるようになり、時に活躍し、注目もされるようになった八村さんだが、まだ課題もたくさんある。そのひとつがディフェンス。ゴンザガ大のマーク・フュー・ヘッドコーチは、選手起用の際にディフェンスを重視するコーチ。試合に出ても、ディフェンスで守るべき約束事を忘れてたり、カバーに出るのが遅れたりすると、その直後にベンチに下げられることも多い。



12月1日、ホームコートで対戦したクレイトン大は、オフェンス力に長けたチームで、ゴンザガと同じように攻守にきっちり相手の戦術をスカウティングしてくるチーム。そんな相手に対応するには、全選手がチームで決められた約束事を緻密に遂行する必要がある

る。また、相手のやり方に対応するために、試合中にさらに守り方を変えるとといったことも必要になる。アメリカのトップレベルの大学の複雑なフォーメーションや、考えながらのプレーを学んでいる最中の八村さんにとって、これは難しかった。八村さん自身も、「今シーズンで一番難しかった」と言う。

八村さん



「正直、今回の今のチーム（クレイトン）、今までの試合の中で一番難しかったんじゃないかなと思う。相手も、ディフェンスもオフェンスもよくスカウトしてくるチーム。特にあっちのオフェンスは複雑すぎて、僕もディフェンスで何やっているのか、自分でわからないぐらいになっちゃったんです。その中でコーチも難しいことを言い始めたりするので、きょうはその部分で（対応が）ちょっとだめだったなあというのがありました」

「ディフェンス第一のチームなので、ディフェンスやらなかったら、試合も、ミニッツ（出場時間）もらえない。その中で、きょうは本当、難しかったなという風に思います」

■全米メディアからも名前を取り上げられ、NBAからもスカウトされ始める

今年7月のFIBA U19ワールドカップで活躍したことで世界的に名前が知られるようになり、非公式のNBAドラフト予想サイトでも1巡目指名の中に名前があげられることも増えてきた八村さんだが、11月下旬、感謝祭の週末に行われたPK80の大会（強豪チームが多く参加していたため、NBAスカウトたちも多く見に来ていた）で、強豪テキサスを相手に20点をあげる活躍を見せたことで、スカウトの注目度はさらにアップ。ゴンザガには他にも数名、NBAチームがスカウトする選手がいるが、八村さんも、決して彼らのオマケではなく、NBA入り有望選手としてスカウティングされるようになった。

NBAドラフトサイトのnbadraft.netの最新予想（11月29日更新）では1巡目の18位指名、スポーツイラストレイテッド誌のウェブサイトでのドラフト予想（12月4日更新）では1巡目の25位指名と予想されている。

NBADraft.net

http://www.nbadraft.net/2018mock_draft

スポーツイラストレイテッド

<https://www.si.com/nba/2017/12/04/nba-mock-draft-2018-deandre-ayton-luka-doncic-marvin-bagley>

これらは、今シーズン後に NBA ドラフトにアーリーエントリーするという前提での予想。ゴンザガ大のトミー・ロイド・アシスタントコーチは、ドラフト予想はあまり参考にならないと釘をさしつつも、八村さんが将来 NBA 選手になる素質を持った選手であることは認め、「本物の才能」と評する。そのうえで、大事なのは NBA に入るのではなく、NBA で長いキャリアを送る準備ができることで、「才能から見てあのレベル (NBA) でプレーできるはずだと思っても、実際にそれをできるようになるように辛抱強く見守りたいと思っている」と語った。

八村さん自身も、ドラフト予想に自分の名前があげられていることについては、友達から聞いて知っているといいながらも、開幕戦後にそのことについて聞かれ、「そういうのはあくまで予想でしかないのです。そういうので、僕はあまり気にしていないのです」とコメントしている。

■日本代表ヘッドコーチが会いに来た！



12月1日、日本代表のフリオ・ラマス・ヘッドコーチがスポケーンを訪れ、クレイトン大とのホームゲームを観戦した。

さらに、その翌朝には直接会ってのミーティングも行われ、ラマス HC から八村さんには、NCAA のシーズン後にはぜひ日本代表の一員として FIBA ワールドカップ予選を戦ってほしいと期待の言葉をかけられ、八村さんも代表として戦いたいという思いを伝えた。

文・写真：宮地陽子